

植物防疫情報第1号

平成28年4月7日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

タマネギべと病の防除を徹底してください

岡山県病害虫防除所による4月5日の巡回調査では、タマネギべと病の発生が早まっており、発生圃場率は100%（平年18.9%）で、発病度^{*}も67.5（平年5.5）と高まっています。広島地方気象台による向こう1か月の予報（4月2日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、多雨は本病を助長する条件です。圃場をよく観察し、予防的な防除対策を徹底してください。

なお、農薬の使用に当たっては、タマネギの収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策をとってください。

^{*}発病度：0～100で評価。数値の大きい方が発病程度が高い。

（防除上の参考事項）

- （1）本病は、気温15℃前後（4月～5月上旬頃）で、雨が多いと多発生しやすくなる。
- （2）発病を確認した圃場では葉によく付着するように薬剤散布を行う。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける（表1参照）。
- （3）べと病の類似病害に黒点葉枯病、黒斑病がある。べと病は、多湿時には病斑上に白色または灰白色の分生胞子を形成する（図1）。これに対し、黒点葉枯病は病勢が進展すると病斑上に小黒粒点を密生し（図2）、黒斑病は病斑上にすすの様なかびをつくり、病斑の上下が長く帯状に淡褐色に変色するので区別できる。
- （4）タマネギのべと病菌はネギやワケギにも感染する。



図1 タマネギべと病の病徴



図2 タマネギ黒点葉枯病の病徴

表1 タマネギべと病の防除薬剤

平成28年4月7日現在

系統名	薬剤名	治療効果	希釈倍数	使用基準		成分名
				時期	回数	
フェニルアמיד系剤を含む	☆ リドミルゴールドMZ	●	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM+マンゼブ
	☆ フオリオゴールド	●	800~1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM+TPN
メトキシアクリレート系剤を含む	★ アミスター20フロアブル	●	2,000倍	収穫前日まで	4回以内	アゾキシストロビン
	★ アミスターオブティフロアブル	●	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	アゾキシストロビン+TPN
	★ シグナムWDG	●	1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	ピラクロストロビン+ボスカリド
	★ ホライズンドライフロアブル	●	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル+ファモキサドン
シアノアセトアミド系剤を含む	ブリザード水和剤	●	1,200倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル+TPN
	カーゼートPZ水和剤	●	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル+マンゼブ
	ベトファイター顆粒水和剤	●	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル+ベンチアバリカルブイソプロピル
モルフォライド系剤を含む	フェスティバルM水和剤		750~1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ+マンゼブ
	フェスティバルC水和剤		600~800倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ+銅
	ザンプロDMフロアブル		1,500~2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ+アメトクトラジン
有機銅剤	ヨネボン水和剤		500倍	収穫7日前まで	5回以内	ノニルフェノールスルホン酸銅
有機硫黄剤	ジマンダイセン水和剤		400~600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ
	ペンコゼブ水和剤		400~600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ
有機塩素剤	ダコニール1000		1,000倍	収穫7日前まで	6回以内	TPN
	ランマンフロアブル		2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド
	ドーシャスフロアブル		1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド+TPN
	フロンサイド水和剤 フロンサイドSC		1,000~2,000倍	収穫7日前まで 収穫3日前まで	5回以内	フルアジナム
	プロポーズ顆粒水和剤		1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイソプロピル+TPN
	カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤		750倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイソプロピル+マンゼブ
その他	ベジセイバー		1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	ベンチオピラド+TPN
	レーバスフロアブル		2,000倍	収穫前日まで	2回以内	マンジプロパミド
	ジャストフィットフロアブル		3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	フルオビコリド+ベンチアバリカルブイソプロピル

注1) ☆印及び★印の剤は、連用すると薬剤感受性が低下する恐れがあるので、耐性菌を出現させないために同じ印の薬剤の連用を避ける。
ホライズンドライフロアブルの成分ファモキサドンとメトキシアクリレート系剤は、系統が異なるが相互に交差耐性を示す可能性があるため、これらの剤の連用を避ける。

注2) 表中の●印は、タマネギべと病に対して、治療効果のある薬剤を示す。